

2019年8月21日

女子中高生夏の学校 2019 活動報告書

夏学 2019 サポーター：山原真子（リーダー、滋賀医大）、佐藤由香（名古屋大学）、杉山紀之（大阪医大）、堀米麻里（横浜市大）、向田凧沙（慈恵医大）、稲城玲子（実行委員、東京大学）、西山 成（視察、香川大学）

去る 2019 年 8 月 9 日～11 日、埼玉県にある国立女性会館において夏学 2019 が開催されました。全国から 101 名的女子中高生が参加し、34 名の大学生大学院生ティーチングアシスタントや、200 名以上の理系分野の協力学会、大学、高校および企業からの実行委員やプログラムスタッフの協力のもとで三日間のサイエンスプログラムが執り行われました。



日本腎臓学会は昨年度よりこの催しに参加し、女子中高生たちに腎臓や医学の紹介をする機会を得ています。今年度も日本全国から 5 人のサポーターにお集りいただき、第 2 日目に開催されたポスター展示および「GATEWAY」というブース活動に参加しました。このコーナーは、多種多様な理系の分野の研究について実際に触れて感じてもらい、女子中高生たちに将来の進路について考えてもらうという催しです。

腎臓のはたらきや腎臓内科医のキャリアプランについてわかりやすく示したポスターを作成し、



さらに再生医療などの分野を含めた研究領域や医師の仕事の多様性などを示したスライドを用意しました。それらを用いて、参加者の興味に応じていろいろなお話をさせていただきました。参加者たちは、真剣にメモを取りながら話を聞き、活発な質疑応答がなされました。腎臓の模型と腎生検の病理写真を見比べて「ここまで実際に見られるのですね！」と目を丸くしたり、様々な働き

をする腎臓の役割に目を輝かせ、「腎臓が 1 つになっても大丈夫なの？再生技術はどのくらい進歩しているの？」といった鋭い質問があったりと、参加者の熱意にむしろこちらが触発されました。

女子中高生に将来のビジョンを考えてもらう、という催しだったのですが、夢にあふれる彼女たちから大きな刺激を受けました。今回の日本腎臓学会の出版活動を通じて、生命の神秘さや医療技術革新の目覚ましき、医師や研究者としてのキャリアプランなど個々のニーズに応じた幅広い情報発信ができたのではないかと思います。将来に対して明確なビジョンを持ち、未来の研究者・医師を志す学生が増えていただければ嬉しい限りです。



この度は、このような貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。